

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

分科会1議事録

(開催要領)

1. 開催日時: 令和7年2月28日(金)11:00～12:00

2. 場 所: オンライン開催

3. 出席者:

＜担当幹事＞

井澤徹

特定非営利活動法人新公益連盟

上原純枝、鈴木ひかり

特定非営利活動法人あなたのいばしょ

＜構成員＞

しものせきラボ、NPO法人ゲートキーパー支援センター、ウエルシア薬局、中野区地域支えあい推進部地域包括ケア推進課等、計28団体40名

＜事務局＞

大西連 内閣府孤独・孤立対策推進室参与

荒川裕美 内閣府孤独・孤立対策推進室参事官補佐

(議事次第)

1 開会

2 議題

(1)経過説明

・令和6年度のつながりサポーター養成の取組に関する報告

・今後のつながりサポーター養成の展開について

・令和7年度孤独・孤立対策強化月間について

(2)意見交換

(3)その他

3 閉会

(資料)

(資料1)分科会1(第5回)プログラム

(資料2)令和6年度におけるつながりサポーター養成の取組に関する報告

(資料3)令和7年度事業の進め方に関するご報告

(資料4)つながりサポーター養成目標に関する報告

(資料5)つながりサポーター養成事務局の設置に関するご相談

(議事録)

○荒川氏 皆さま、おはようございます。お時間になりましたので、これから、孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム分科会1を始めます。本日は、お忙しい中ご参加いただきありがとうございます

ます。本日司会を務めます、事務局の内閣府 孤独・孤立対策推進室の荒川です。よろしくお願いします。本日の分科会は、Microsoft Teamsによるオンライン開催としています。

では早速、事務局より資料1に沿って本日のプログラムを説明します。まず議題1の経過説明として、担当幹事の井澤様より、資料2に沿って令和6年度のつながりサポーター養成の取組に関してご報告いただきます。その後、大西参与より、資料3～5に沿って今後のつながりサポーター養成の展開について、そして資料6に沿って令和7年度孤独・孤立対策強化月間について説明いたします。その後、11時25分頃より意見交換を開始できればと思っています。終了は12時頃を予定しています。

それでは、まず、議題1の経過説明として、資料2に沿って令和6年度のつながりサポーター養成の取組に関してご報告させていただきます。井澤様よりお願いします。

○井澤氏 はい。分科会1担当幹事の新公益連盟 井澤です。どうぞよろしくお願いします。本年度のつながりサポーター養成の取組について、資料2の4ページをご覧ください。

初めて分科会1にご参加の皆さまもいらっしゃるので、つながりサポーター養成の背景について簡単にご説明します。5ページをご覧ください。令和4年10月に、「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた取組の在り方をまとめた検討成果において、相談者になり得る層、つまり相談を受ける層への対策として、認知症サポーター養成事業を参考に、孤独・孤立の理解者を増やす活動として同養成講座のような仕組みを設けてはどうかということを提案しました。これがつながりサポーター養成の取組へとつながり、令和5年度からモデル事業が始まりました。

6ページをご覧ください。今お話しした背景のとおり、つながりサポーター養成講座は、孤独・孤立の理解者を増やすこと、孤独・孤立対策に関する取組の普及・啓発を目的としているので、普段から福祉に携わっている方だけでなく、専門的知識を持たない方も対象としました。ゲートキーパーなど既存の養成講座との棲み分けとして、講座の内容は一般的・汎用的であり、サポーターの役割は日常的なサポートであることとしています。

7ページをご覧ください。令和6年度は、分科会1の下に有識者検討会を設け、教育関係者やこども家庭庁の「こども若者★いけんぶらす」を通じてこどもの意見も伺いながら、こども版のテキストの作成、シンボルグッズの作成、養成講座の本格実施などを進めてきました。

8ページをご覧ください。今お話しした有識者検討会の構成メンバーと、各検討会の議題をご紹介します。こども版テキストの作成に当たっては、教育関係の有識者に毎回ご参加いただき、イラストや表現を含め、ご意見を頂きながら進めてきました。

9ページをご覧ください。大人版のテキストは、令和5年度の有識者検討会で、講師用テキストと共に作成しました。前半では、実態調査結果なども紹介しながら孤独・孤立とは何かという基本的な知識に加えて、誰もが孤独・孤立に陥りやすくなっている社会構造上の問題などについて学び、後半では、個人ワークも交えながら「困ったときどうする？」というテーマで基本的な対応を学ぶとともに相談窓口や地域活動を紹介するという、60分の講座となっています。

10ページをご覧ください。現在作成中のこども版のテキストでは、小学校高学年と中学生を対象とし、学校の授業時間中に学んでもらえるように45分の講座とする予定です。また講師用に、学習指導案も用意する予定で進めています。

11ページをご覧ください。本年度の養成講座の実施結果ですが、1月から2月にかけて全国15自治体と9団体で実施し、有識者検討会委員に加え、分科会1メンバーにも講師を担っていただきました。11ページが1月実施分、12ページが2月実施分となります。

13ページをご覧ください。受講証として、「ヒカリノ」を使用したピンバッジを作成しお届けしました。ピンバッジの裏側には、状況に合った支援をチャットボットで探すことができる内閣府のサイト「あなたはひとりじゃない」にアクセスできるQRコードが刷り込まれており、受講者の皆さんからも大変評判の良いグッズになりました。他にも、民間企業などで自主的に養成講座を開催いただけるよう、講師向けの研修用動画なども作成する予定で進めています。

14ページをご覧ください。こども版テキストの作成に当たり、「こども若者★いけんぷらす」を活用し、こどもたちの生の声を聞きました。「まわりに不安や悩みを抱えている人がいたら、声掛けや手助けをしようと思いますか」という設問に対し、7割の子どもが「しようと思う」と回答している中で、「手を差し伸べるというイメージがわからない」「どのように行動してよいかわからない」といった課題点も見つかりました。

スライドの右側に記載のとおり、孤独を感じることもあるかという問いに対して、4割強の子どもが孤独を感じており、大人と同様の傾向が認められました。こどもたちの生の声も踏まえると、こども版のサポーター養成講座の有用性も明確になっています。テキストについては、本年度中に完成する予定です。

私からの説明は以上です。

○荒川氏 ありがとうございます。では続いて今後のつながりサポーター養成の展開について、そして、令和7年度孤独・孤立対策強化月間について、大西参与より説明をお願いします。

○大西氏 はい。皆さん、こんにちは。参与の大西連です。お久しぶりの方も、初めましての方もいらっしゃるかと思います。簡単に私のほうから説明したいと思います。

来年度、令和7年度の事業の進め方について、簡単にご紹介とご報告をさせていただければと思います。1つ目は、井澤氏からもお話がありましたが、こども向けのテキストを展開していきたいということです。2つ目は、大人向けのサポーター養成のさらなる発展を目指した取組です。1つずつ簡単にご紹介します。

1つ目のこども向けのテキストの展開については、今年度有識者検討会を含めてさまざまな議論をしてきたものを、「学習指導案および講師用テキストの検討」ということで、教育現場等でご活用いただけるような学習指導案に落とし込むということをぜひやっていきたいと思っています。ですから、実際の学校現場等で活用していただけるような土台を作っていくことを目指しているところです。そして、それを基に、こども向け養成講座の試行実施をします。少し並行する形になると思いますが、こども向けのテキストを活用し、小学校高学年から中学生向けの養成講座の試行実施を進めていきたいと考えています。

先週、私も、福山市の中学校で実施させていただいたのですが、こども向けということになると、やはり、より工夫した取組、工夫したテキストの内容が必要ではないかと思うので、そのような取組を、さまざまな学校現場のご協力を仰ぎながら試行的に実施できればと考えています。

2つ目は大人向けです。サポーター養成のさらなる発展ということで、今年度は24か所で実施しましたが、これをより多くの団体やさまざまな場面で実施していただけるよう、取組を拡大したいと思っています。今日ご参加の皆さんに関連する団体や機会で、ぜひ積極的に実施できるようにご協力を頂ければと思っています。より大きな規模で、多くの方に受講していただけるような取組ができればと思っています。

3つ目は、受講証明グッズの作成です。先ほど「ヒカリノ」のピンバッジを紹介しましたが、そういった自主開催に前向きな団体へお渡しするようなものを作成していけたらと思っています。

4つ目は、地域単位、地域ブロック単位で、行政職員を対象とした養成講座や意見交換の機会を設け、自治体間の連携や好事例の横展開が図れればと思っています。今、地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事業に取り組んでいる自治体も、そうでない自治体もあります。そのような人たちが一堂に会し、前半はつながりサポーター養成講座を開催し受講していただき、後半は意見交換をする。そのような機会をつくることによって、より意識の醸成を図り、孤独・孤立対策を進める上での水平的連携に向けた知見の共有や、そこで受講してくれた方がそれぞれの自治体・地域でサポーター養成をしていただくことを目指していけたらと考えています。

次はスケジュールイメージです。あくまでイメージなので、多少前後する部分があるかもしれませんが、担当幹事会を5月ごろに予定しており、有識者検討会は全5回程度を予定しています。7月、8月、9月、10月は、月1回ぐらいで開催できたらと思っています。カリキュラム関係では、こども向け講座の学習指導案を、有識者検討会で検討しながら作っていく形になるかと思います。講座に関しては、5月が孤独・孤立対策強化月間なので、その機会に、全国の地域・団体等での実施を広く呼びかけ行っていくこと、また、秋口以降に、こども向け、そして、先ほど申し上げた地域ブロック別の開催を、試行的に実施していくことを考えています。

この他、今後この講座の事務局機能をどのように据えるのか、また、養成目標をどのように設定するのかなどについては、まだ議論が必要な点があります。これは、分科会1や担当幹事会等で、来年度も継続的に議論を続けていこうと考えています。

「つながりサポーター養成目標に関する報告」ということで、簡単にご報告させていただきます。前提なのですが、「支援を求める声を上げやすい・声をかけやすい社会」の実現を目指し、孤独・孤立についての理解、意識や機運を社会全体で高めていくための取り組みの一環として、現在、つながりサポーター養成の取り組みを進めているところです。この「理想的な状態」「最終目標」を実現するには、具体的かつ実現可能な養成目標の設定が求められるだろうと考えています。

具体的な養成目標というのは、「何年で何人ぐらいを養成できたらいいよね」というようなものです。そのような目標があることによって、ではそれを目指して頑張らしましょうとか、対外的にも「このぐらいの人数になるとこういう効果があります」ということをご説明できるのではないかと思います。その具体的なイメージを少し検討していく必要があるのではないかと思います。これについては、皆さんの、この分科会1の本体での議論の中で、このぐらいの方がこの講座を受けてくれる状態が望ましいのではないかとということや、それをどれぐらいのスパンで達成するのがいいのかということについて、いろいろとご意見を頂戴したいと思います。その中で議論をし、最終的に決めていけたらと考えています。これは相談事項ということで、ぜひ皆さまとも意見交換をできればと思っているポイントです。

それに当たり、実は、関連施策といいますか、各省庁のいろいろな取り組みに、サポーター養成のようなものが幾つかあるので、ここではそれを簡単に紹介しています。全部を紹介すると長くなってしまうのですが、皆さんも聞いたことがある、もしくは受けたことがある方が比較的多いのではないかと認知症サポーターについては、2005年に養成が始まり、5年で100万人、2020年には1,200万人を目標としていました。養成状況としては、2024年現在で約1,598万人なので、1,600万人ぐらいです。ですから、おおむね目標を達成しているともいわれています。一方で、心のサポーターなどは、目標は認知症サポーターと同様にかかなり大きな目標なのですが、養成状況としては、今15,551人ということで、これからというところだと思います。他にもいろいろな取り組みがあるので、それと比べながら、つながりサポーター養成講座はどのぐらいの規模感を目指すべきな

のか、ということを議論できたらと思っています。

次に「つながりサポーター養成事務局の設置に関するご相談」ということで、今後、継続的な養成に当たって、実施主体は、団体、市民の方、行政といろいろとあると思うのですが、どこに問い合わせ、どのような形で実施していくのかということについては、事務局機能のようなものを恒常的に設置していくことが必要だろうと考えます。

ただ一方で、課題として、事務局機能を担ってくれる団体の当てがないという状態があります。現在は、調査研究事業の範囲内でシンクタンク等に受託していただくということで、リディラバ社が担ってくれているのですが、今後どのような枠組みで事務局機能を担っていただくことが良いのかを少し議論していく必要があるのではないかと思います。事務局の業務としては、実施主体との連絡調整や、受講状況の管理・報告、テキスト等ツール類のメンテナンス、受講証明グッズの作成・配布、パートナー企業登録の仕組み作り、またその管理や、専用ウェブサイト、講師派遣調整など、いろいろなことがあり得るので、業務的には一定の重みがあるものになると思います。今後、先ほどの認知症サポーター養成講座のように受講者を増やしていくことになる、より、その業務をどのように行っていくのかということも考えていく必要があるのではないかと思います。

では、5月の令和7年度孤独・孤立対策強化月間についてのご報告を簡単にさせていただきます。あっという間に明日から3月なので、あれよあれよという間に近づいてきますが、5月が孤独・孤立対策の強化月間ということで、さまざまな取組を進めていきたいと、今考えています。去年も「ぷらっとば〜す」という名前でメタバースを開設し、誰もがぷらっと寄れるメタバース空間を作りました。メタバース空間内から、つながり養成サポーター講座を受講できたり、各地のさまざまな取組を検索できたりするような仕組みをつくりました。来年度に関しても、同様の特設メタバースを設置し、つながりサポーター養成講座やメタバース相談、各団体の取組紹介等の実施ができないかと思っています。

今年度は、いたずら目的の人たちに場所を少し荒らされるようなこともあったので、今年度はそのようなことがないように丁寧に取り組み、いたずら目的で悪意を持ってアクセスする方へも丁寧に毅然(きぜん)として取り組むため準備をしているところです。

名称については、今年度と同じですと「ぷらっとば〜す」で、そのまま同じ名前で続けるということもあり得ると思うのですが、新しい名称にするということも案としてあります。これについてもぜひ皆様のご意見を伺えたらと思います。これはメール等でもいいかと思っています。内閣府の中で議論した案としては、「ふわりんく」「ゆるりんく」「ぷらっとリンクル」「こころステーション」「ゆるぷら☆タウン」などが出ていますが、これぞというものがあれば、ぜひアイデアを頂けたらと思います。この名称は、既存の商標などとかぶってしまうと非常に問題になりますが、このようなことはぜひ考えていけたらと思っています。特設メタバースの取組についてです。5月2日から11日までの10日間、毎日何らかのイベントを開催できないかと思っています。ゴールデンウィークを中心とした期間は、これは分科会3でも議論していますが、電話・チャット・メタバース相談等の、孤独・孤立相談を実施する予定です。詳細は、今、分科会3で詰めているところです。この期間は、さまざまなNPO、企業、団体を取組を紹介していただくようなイベントを開催します。今日ご参加の皆さまの各団体の中でも、この月間に合わせ取り組んでいただければ、ぜひお願いしたいと思っています。私も「参与の部屋」という対談企画のようなものを行う予定です。

そのようにいろいろな方と対談をしたり、また、つながりサポーター養成講座も開催します。ここに書いていますが、今年度も各地でいろいろとイベントを開催していただいたので、そのようなも

のもご紹介しています。ぜひご参加の皆さんも、これを機に、月間に合わせて、いろいろな取り組みをしていただけたらと思います。また、「このようなものをやろうと思っているのだけど、どうだろうか」というようなことも、遠慮なくお問い合わせいただいたり、ご相談いただけたらうれしいです。ここに書いてあるのはあくまで一案なので、ぜひいろいろな形で、リアルなイベントでもいいですし、オンラインのイベントも併せてやっていただけると、非常にありがたいです。

私からの説明は以上です。過不足があれば、事務局のほうで補足していただければと思います。以上です。

○荒川氏 ご説明ありがとうございます。この資料上、幹事団体の皆さまは1団体につき少なくとも1企画に参加いただきたいと書いていますが、幹事団体以外のプラットフォーム会員の皆さまも、ぜひご希望があればご参加いただければと思っています。参加したいとか、このようなものはできないだろうかなどのアイデアを、また、メールやお電話などで、孤独・孤立対策推進室までお寄せいただければと思います。よろしくお願いします。

ありがとうございます。それでは、これより意見交換に移りたいと思いますので、大西参与、進行をお願いしてもよろしいでしょうか。

○大西氏 はい。もちろんです。了解しました。では意見交換に移りたいのですが、内容もかなり多岐にわたっていたので、まず、シンプルにここが分からなかったから質問したいということがあれば、簡単に質疑から入り、その後意見交換という形にできればと思います。手挙げなり、声が出せない方はチャットなりで、まず質問事項を受け付けて、その後に意見交換という形にできたらと思います。

質問事項がある方は、ぜひ、手挙げ、もしくは、声を出せない環境の方はチャットなどで、何か合図をしていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。ありますか。Teams画面上で見つけられなかったら、声を出してください。特に大丈夫ですか。では、質問事項はないということでもいいですか。

では、意見交換に移ろうと思います。いろいろな点が出ていましたが、率直にどれでも、気になること、これはもっとこうしたほうがいいのかということなど、絞らずに、お話ししやすいものからで構いませんので、もしご意見のある方がいらっしゃればぜひお願いします。これも、手挙げかチャットかで構いません。声を出してしまっても構いませんので、ぜひ、ある方はお願いできればと思います。ぱっと出づらそうでしたら、ぜひ幹事団体の皆さんから、何か補足なり、口火を切っていただけたらと思います。

今、ぱっと出ないようなので、では担当幹事の「あなたのいばしょ」さん、いかがですか。

○上原氏 はい。「あなたのいばしょ」の上原です。ご説明ありがとうございます。サポーターの目標数値に関しては、前回の担当幹事会でも、具体的な数字というところになかなか悩ましさがあったので、認知症サポーターのご経験がある方や、心のサポーター養成講座をこれから受けるというような方がもしいらっしゃれば、数字的な目標や広報に関しての具体的な施策など、何かアイデアを頂けるとうれしいです。

また、メタバースの名称については、私たちは、このまま「ぷらっとば〜す」のほうが、ネーミングも新奇的というか、他とは少し違う名前が続けていけば認知度も上がってくるのではないかと思います。心配なところもあるかとは思いますが、ネーミングはあえて変えないほうがいいのかという意見がありました。

○大西氏 上原さん、ありがとうございます。では、手挙げをしてくれた方がいるので、ご意見を

伺ってみたいと思います。佐藤さんでしょうか。しものせきラボの佐藤さんが手を挙げてくれているので、もしよければご発言いただければと思います。

○佐藤氏 はい。お世話になります。先日からオンラインで勉強させてもらっています。ありがとうございます。山口県もそうですが、下関市はまだ、つながりサポーターの養成事務局的なものは、おそくないのではないかと思います。例えば、事務局を設置するに当たり、今私は任意団体なのですが、それでもその取り組みができるようになるのでしょうか。

○大西氏 ありがとうございます。今は、調査研究事業ということでリディラバ社が担当をしてくれているのですが、今後この講座を多くの方に受けていただくに当たりどのような形で移行していくのがあるのかは、いろいろと議論のあるところですね。規模が大きくなると、それこそ日常のやりとりも含め事務局機能はかなり重くなるだろうということと、例えば、地域ごとにそのような事務局機能があったほうがいいのか、では、それを行政がやるのがあるのか、官民連携プラットフォームのような枠組みでやるのがあるのか、民間の中間支援組織などの団体がやるのがあるのかなど、まだ具体的なところは、これでやろうということが決まっているわけではないのではないかと私は理解しています。この理解でいいのか、内閣府側から少し補足をしていただければと思います。

○松木氏 はい。内閣府 孤独・孤立対策推進室参事官の松木です。よろしくお願いします。つながりサポーター養成の事務局機能が必要だという話ですが、まさに認知症サポーターでも、同じように、事務局機能というものをきちんと置いています。受講証明をどのようにして与えるか、講師をどのように養成するか、テキストをどうするかなど、全国である程度統一的にやったほうがいいものがあり、そのような意味では、やはりこのつながりサポーターでも、例えば受講証をどうするかなど、同じように共通化を図ったほうがいいものがあるので、事務局機能を内閣府から委託する形で置けないかという考え方で、課題を提起させていただいています。

他方、先ほどのご質問で、各団体で実施する時の事務局機能という話があったのですが、各団体でつながりサポーター養成を実施いただく際には、各団体が実施しやすいようにという配慮から、受講者用テキストの他に講師用テキストというものを作成しています。スライドごとにそのまま読み上げる文章のようなものも作り、それを読み上げれば一応60分の講義が成立するというものを用意しています。もちろんアドリブでいろいろな言い方に替えてもらってもいいのですが、そのような、認知症サポーターよりもさらに取組のハードルを下げるための工夫もしているので、各団体でしっかり事務局機能を設けてというような負担感の多いことはあまり考えずに、ぜひ気軽に取り組んでほしいというのがわれわれの思いです。

ただ、取り組んでいただいた方に受講証やピンバッジもご用意しているのですが、それをどのようにお届けするかなど、いろいろなことを考えなければいけません。そのようなグッズを作るということに関しては、やはり一元化したほうがいいのかと思っているので何らかの形で統一的な事務局を置けないかというのが、今日お示ししている事務局の設置についての課題ということになります。私からは以上です。

○大西氏 ありがとうございます。ですから、例えば山口でやられる場合は、たぶん、役割的には実施主体のところに入ってくると思います。そして、この事務局というのは、たぶんいろいろな地域でいろいろな団体さんにやっていただくことをサポートするというような形になるのではないかと思います。今のご説明で大丈夫ですか。

○佐藤氏 はい。ありがとうございます。

○大西氏 まだこれで確定しているわけではないので、いろいろな状況が変化していく中で、皆さんからご意見やご議論を頂く中で、変わっていく部分もあるのではないかと思います。他に、ご意見や、ちょっとこれは聞きたいということがあれば、皆さま、手挙げでもいいですし、声が出せない環境の方はチャットでも構いません。いかがですか。

では、今事務局の話が出たので、目標の話について、ぜひ井澤さんに、どのような議論の仕方がいいのかの一案のようなものをお話しただけたらと思います。

○井澤氏 はい。ご指名ありがとうございます。先ほど大西参与にご説明いただいた24ページが参考になるのではないかと思います。認知症サポーターの目標設定に当たっての右下の円グラフの構成比が参考になると思います。住民、行政、介護サービス、これを仮に自治体とひとくりにすると、全体としては自治体が5割、学校が3割、そして企業が2割という構成です。この構成比は、つながりサポーターにおいても参考になるのではないかと思います。

この割合で目標感をイメージすると、まず自治体については、過去2年間のこのつながりサポーター事業で、養成講座を実施した約30の自治体があるので、この30の自治体に自主開催をお願いし、大体年3回、1回当たり50人くらいの規模の講座を開催いただくとすると、これだけで年間4,500人くらい養成ができます。また、新たに10自治体程度で、令和7年度の事業として養成講座を実施すると、1回当たり50人として500人を養成できるので、自治体合計で、これだけで5,000人ということになります。

他方、今、こども版のテキストを作っていますが、小中学校で20校程度にこども版のテキストを用いて、令和7年度の事業として養成講座を実施すると、1校当たり150人程度受講してもらうと、これだけで3,000人規模の児童・生徒を養成できます。

最後に、企業・職域ですが、これまでの事業で養成講座を実施した大企業を中心に自主開催をお願いし、1,000人規模。そして、新たに企業・団体数社に、令和7年度事業として養成講座を実施し、プラス1,000人くらい養成できるとすると、企業・団体合計で2,000人です。このようなイメージで、令和7年度の目標としては、トータルで1万人、内訳構成比としては、認知症サポーター同様、自治体5割、学校3割、企業・団体2割、このようなイメージ感でいかがかと考えています。以上です。

○大西氏 非常に具体的な数字をイメージできました。今後どう広げていけるのかという点について、今、井澤さんにもおっしゃっていただきましたが、サポーター数と講座開催回数なども参考に気がしています。例えば、住民は609万人で、講座回数は23万回ですから、もちろん大きい会も小さい会もあると思いますが、平均すると大体1回30人くらいの会を開催しているのだと思います。企業・団体も大体30人くらいの規模の会を開催しているのだと思います。学校ですと、477万人で大体9万回ですから、1回50人くらいで少し規模が変わるのですが、なんとなく講座のイメージのようなものもつくっていけるのではないかと思います。今、井澤さんにお話しいただいたような具体的な方向性、来年度のところと今後のところというのも、そのような中で見えてくる部分があるのではないかと思います。

百何万人などと聞くとすごいなと思いますが、実際このように達成している講座があったり、今、井澤さんにお話しいただいたようにイメージを数字にしていくと、実は既に試行事業内で結構な人数の方々受講していただいているという事実もあるので、あながち実現不可能な数字の規模感でもないのかもしれないと思います。続いてチャットで質問をいただいている梅澤さん、いかがでしょうか。

○梅澤氏 兵庫県にあるNPO法人ゲートキーパー支援センターの梅澤です。同じ内閣府さんがやっていたりする事業で、地域女性活躍推進交付金の中に、女性のためのつながりサポートというものがあるかと思います。各地の地方自治体がNPOと組み、女性のための生理用品の配布と相談事業などをやっているものなのですが、当団体も神戸市とその事業を受託しています。

この女性のためのつながりサポート事業と、今回のつながりサポーター養成講座の関連が私もよく分かっておらず、同じ団体の人にどうなっているのか聞かれても説明できない状況です。その関連や、あるいは、実は女性のためのつながりサポートがこちらのつながりサポーター事業に大枠で組み込まれていくとか、そのような大きな流れがもし決まっているのであれば、簡単にお教えいただければありがたいです。

○松木氏 つながりサポーター養成講座は、名称こそ「サポーター養成」と、一見何か専門知識のある人を育てるように見えるのですが、実は普及・啓発のための施策として位置付けています。「孤独・孤立になるのは個人のせいじゃないんだよ」というようなすごく大事なことを理解していただく、ライトな理解者を増やしていきたいというものです。世の中には、実はいろいろなサポーターの養成講座があります。ゲートキーパーという自殺対策でやっているものもあれば、認知症サポーターもあれば、心のサポーターもあればというふうに、実はたくさんあるのですが、それらの一歩川上といえますか、入り口の部分に位置付けるものとして、このつながりサポーター養成講座というものがあります。

このつながりサポーター養成講座を受けていただき、「私はゲートキーパーのほうをやりたい」など、さらに関心を持っていただいた方が、やや専門的な知識を教えるような内容のそれぞれのサポーター制度の講座を受けてみたり、上に行ったり、右に行ったりというような感じで進んでいってくれたらと考え、そのスタート地点の一番初歩の部分に位置付けたということです。

従って、ご質問のあった、男女共同参画局が行っているサポーター制度を、このつながりサポーター養成講座の中の一部に位置付けようなどという意図は全くありません。スタート地点で、まず、「本当に気軽に受けに来てね」という感じで、誰でも講師になれるし、誰でも受けられるような講座として、普及・啓発に重きを置いて作ったのがつながりサポーター養成講座という位置付けです。以上です。

○大西氏 松木さん、ありがとうございます。そうですね。地域女性活躍推進交付金の枠で実施しているのが女性のためのつながりサポート事業ですが、「つながり」というものに着目した事業自体は各府省庁で複数実施しています。もしくは、自治体独自の取組などがあったり、民間で社協が類似する講座を開催されていたりということもあるのですが、あくまで、それらの川上の部分で内閣府の孤独・孤立対策としてやっているのが、このつながりサポーター養成講座ということです。

今、「つながり」というのは社会的にすごく大事なテーマなので、やはり各府省庁で重なる部分、理念が共通する部分があるのですが、国としてもいろいろと連携しながらやっているところではないかと思います。でも、自治体や地域のレベルでは、なんだか分かりづらいなとか、重なっているのではないかというふうに思われるかもしれないので、引き続き、説明や棲み分けなどは、積極的にやっていかなければいけないのではないかと思います。

○梅澤氏 ありがとうございます。結局、同じ内閣府さんがされているものの、別の枠組み・別の狙いでやっている別の事業という理解で合っているでしょうか。

○大西氏 そうですね。基本的には、男女共同参画局で女性に寄り添った相談支援という枠組み

の中でやられているのがつながりサポート事業だと思います。

○梅澤氏：ありがとうございます。

○大西氏 本当はうまく連携できたらいいので、それは政府の中でも、たぶん積極的にやっていく必要のある課題ではないかと思います。

○梅澤氏：そうですね。「どうして名前がこんなに似ているの」と聞かれても、答えられないのです。

○大西氏 そうですね。やはり「つながり」や「伴走」というのは、今のテーマというか、どの政策においてもすごく重視されているので、どうしてもかぶってきってしまうところがあり、分かりづらいということはあるかもしれないですね。

○梅澤氏：はい。ありがとうございました。

○大西氏 こちらこそありがとうございます。次にどなたかご質問でも、或いは、地域福祉の文脈でもこれと似たようなことをやっているとか児童相談所もこのようなことをやれと言われているけれどどうなのかなどということがもしあれば、遠慮なくご意見を伺えればと思います。また、ぜひ月間のほうも「ぶらっとば〜す」の名称もそうですし、企画について「このようなことをやれたらいいのではないか」とか「このようなことをやりたい」ということでももちろん構いませんので、どなたか、もしご意見があれば伺いたいです。手挙げでもいいですし、チャットで書いていただいても構いません。自治体の方も発言いただいて全く構いませんので、もしあればと思いますが、いかがでしょうか。特に月間のところは、本当にいろいろな取組をその時期に合わせて各地でやっていただけたら、それだけでもすごくありがたいなと思っているところです。ではせっくなので、勝手に指名してしまって恐縮ですが、ウエルシア薬局の鈴木さん、ご質問でもご意見でもあれば、伺えればと思います。

○鈴木氏 ありがとうございます。本年度からお世話になります、ウエルシア薬局の鈴木です。どうぞよろしくお願いいたします。5月の月間に関しては、当社からも何らかの形で「つながり」につながるようなイベントができればと考えています。そちらに関しては、またあらためてご相談差し上げたいと思っています。

サポーターの養成講座に関しては、社員がこれを学ぶに当たり、2つお尋ねしたいです。例えば、先ほどお話があった認知症サポーターのキャラバン・メイトさんのように、講師の養成をする予定はないという考えでよろしいでしょうか。また、社員が学ぶに当たり、何か画像というか、映像のようなものがあると助かるなと思います。この2点です。

○大西氏 ありがとうございます。ウエルシア薬局さんには月間の企画でもご協力いただけるということで、まさに、企業・職域の皆さんにこのような形で関わっていただけると大変ありがたいですし、ウエルシアさんは各地域にたくさんあるので、非常にありがたいです。

○鈴木氏 ありがとうございます。

○大西氏 ご質問の2点ですが、講師の養成については、基本的にはどなたでも講師になれることを目指したテキストを作っているのので、受けていただいた方が講師役になれるような講師用テキストを考え、今準備し、試行的に行っているところです。

○鈴木氏 ありがとうございます。

○大西氏 ただ、もちろんまだハードルがある場合もあるかもしれないので、その場合は、派遣するなどということはあるかもしれませんが。また、社員さんが学ぶに当たっての動画なり、何らか、そのような形のサブ教材のようなものについても、検討しているところではないかと思います。

○松木氏 今、大西参与がおっしゃったように、まず講師については、認知症サポーターは認知症の専門的な知識もみっちり教えるので、あのようにはっきりと講師養成からやっているのだと思います。われわれは、すごく初歩的な普及・啓発をメインの目的とした講座なので、講師用テキストも作ったりして、そこまできっちりとした、養成講座を受けた人でないと講師になれないというようなことは考えていません。もう誰でも講師になれるような、本当に気軽に組み入れるような形にしたいと思い、そのようにしています。

他方、そうは言っても、少し何かはあったほうがいいという声もたぶんあると思うので、講師用の動画というものを、実は今作成中です。講師をするに当たって、このように教えたらいいいというようなことを動画で学べるようなものを作ったほうがいいということで、実は今取り組んでいる最中です。それが1点です。

もう1つ、「この講座を受けたい」という人のための動画にも、実は、先ほどの講師用の動画とは別途、今、取り組んでいるところです。一応、独りでも学べるように、eラーニング的にできるように何か動画があったほうがいいというご意見もあるのではないかとということで、そのようなものも作成中です。今、2本作っている最中です。出来上がったら、そのようなものを活用して、ぜひ取り組んでいただければと思います。

○鈴木氏 私もそれがあれば助かります。ありがとうございます。

○大西氏 悩ましいのは、動画ですと必ず受けなければならない研修を、2倍速や3倍速で見る方がいらっしゃるのではないかとということです。そのあたりの工夫も社員さん同士でコミュニケーションを取れたりする工夫もあれば、より良いのではないかと思います。ぜひ、またそのあたりはご相談させてください。ありがとうございます。

○大西氏 では続きまして、無理ならば構わないのですが、中野区さんからぜひ自治体関係の方のご意見を伺いたいと思います。ぜひ自治体として、つながりサポーター養成講座や月間企画への参画について伺ってみたいのですが、難しいでしょうか。

この分科会は、NPOなどの支援団体の方もいらっしゃれば、ウエルシア薬局さんのように企業の方もいらっしゃれば、中野区さんのように自治体の方もいらっしゃるので、それぞれの方にいろいろとご発言いただけると嬉しいなと思っております。

○赤峰氏 中野区地域支えあい推進部地域包括ケア推進課の赤峰です。よろしくお願いします。本日はありがとうございました。私は初めて参加させていただき、つながりサポーターについてのお話も初めてお伺いしたのですが、今、内閣府の地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業に参加させていただいており、試行的事業もさまざま取り組んでいるところです。

我々の特徴的な取組として、大手のアニメーション制作会社と組んでヤングケアラーをテーマにした、子ども向け、小学校高学年から中学生くらいまでをターゲットにしたアニメーションを制作しています。「助けを求めやすい社会」や、「誰かに頼っていいんだよ」というところをテーマに、『きかせてほしい、きみのこと』というタイトルで、今作っています。今後、そのプロモーションをどんどん行っていきたいと思っていますので、ぜひ5月の孤独・孤立対策強化月間のイベントと絡めて、どんどん周知していきたいと思っています。何か連携してできることがあれば、ぜひ案を頂ければと思います。よろしくお願いします。

○大西氏 ありがとうございます。『進撃の巨人』や『呪術廻戦』などのMAPPAさんが作られているのですよね。

○赤峰氏 そうなのです。

○大西氏 もう世界的なアニメスタジオです。

○赤峰氏 はい。ネームバリューはあるので。

○大西氏 まさに月間などで、よりそのような動画をプッシュしていただいたり、何かコラボした形で多くの方に知っていただけるようなことができると、それをきっかけに、特にアニメーションなどは若い年代の方に届きやすいということがあるかもしれないので、とても面白そうです。そのあたりはコラボを考えられたらと思います。内閣府側はいかがですか。

○松木氏 はい。ぜひコラボをしたいと思います。実は、品川区さんにも、われわれが作っているこの「ヒカリノ」というキャラクターを使い、声優さんを使って、寸劇のような方式で面白いシンポジウムをやっていたことがありますが。例えば、中野区さんのアニメーションで出てくるキャラクターと「ヒカリノ」をコラボさせるとか、そのような使い方をして連携していくということはウエルカムなので、また具体的なアイデアなどをお互いに出し合って、何か一緒にやれたらと思っています。よろしくお願いします。

○大西氏 まさに、品川区のイベントには、私も登壇しました。区長と私と地域で支援されている方のシンポジウムだけだと、やはりどうしても硬くなるのですが、地元の声優さんたちが寸劇をやってくれて、その寸劇の中で「孤独・孤立ってこういう問題があるんだよ」ということをお話ししていただき、その後にシンポジウムをやるというようなコラボの企画で、参加の方も若かったです。やはり声優さんが出られるということで、かなり若い方が参加してくれました。このようなイベントになかなか普段来られない属性の方が集まったりということもあるので、まさにそのような企画が月間としてやれると面白いのではないかと思います。ありがとうございます。では、引き続き、中野区さんといろいろと連携できるとうれしいです。ありがとうございました。

○赤峰氏 いえ。ありがとうございました。

○大西氏 すみません。時間が若干、1～2分過ぎてしまったので、ご意見、ご質問等はいったんここで締め切りたいと思います。別途、メールでも頂ければ、ぜひやりとりができればと思っています。いったん荒川さんにお戻しします。お願いします。

○荒川氏 はい。ありがとうございます。5月の月間についてですが、先ほどの資料にもあったように、メタバース空間上に文化祭のブースのようなものを設け、各団体の取組をいろいろな形で紹介できればと思っています。「このようなことがやれないかな」ということがあれば、まだアイデア段階で全く構わないので、ぜひお寄せいただき、ご相談させていただければと思います。

その他、5月に、メタバースとは別に独自で実施される取組があれば、孤独・孤立対策推進室で制作する月間のウェブサイトやメタバース上で紹介したいと思います。プラットフォームのメールマガジンでもその取組を募集しているので、こちらにもぜひお寄せいただければと思います。

では、いろいろなご意見をありがとうございました。本日のご意見については、今後のつながりサポーター養成講座の本格実施、また、分科会1の取組の参考とさせていただければと思います。具体的な調整については、担当幹事の皆さまにご一任いただきたいと思います。それでは、そろそろお時間となりましたので、ご参加いただいた会員の皆さま、担当幹事の皆さま、大西参与、本日はどうもありがとうございました。では、これで閉会とさせていただきます。今後ともよろしくお願いします。

以上